102. 頸部内頸部動脈内膜剝離術（CEA）における local neurological complication

武田利兵衛・荒　清次
佐々木雄彦・瓢子　敏夫
橋本　郁郎・井出　渉
藤原　秀俊・戸島　雅彦
下道　正幸・松崎　隆幸
田中　靖通・中村　順一
（中村記念病院 脳神経外科）
末松　克美
（同　上脳神経疾患研究所）

頸部内頸動脈内膜剝離術（CEA）の合併症として，1) perioperative stroke, 2) local neurological complication, 3) medical comprication がよく知られている．しかるに 2) については高率な出現頻度をみるにもかかわらず，一般に症状自体が軽微であり，しかも一過性である事が多いことから，文献上の報告も少ない．しかしながら，一旦両側性障害が出現した場合には，その病態は極めて重篤である．演者らは過去3年間に43例・50回の CEA（両側7例）を施行したが，1例に前述の重篤な合併症（upper airway obstruction）を経験した．これらの経験より，CEA における pit-fall として local neurological complication が存在する事を強調すると同時に，その予防の為，頸部の局所解剖の熟知，及び skillfull operation の重要性，さらに staged bilateral CEA を行う場合には，2nd operation 前に otolaryngological examination が必要である．

103. 局所脳循環よりみた浅側頭動脈 —中大脳動脈吻合術の有効性について—

久保　直彦・遠藤　英雄
黒田　清司・江尻　孝夫
斎木　巌・金谷　春之
（岩手医科大学 脳神経外科）

SPECT による局所脳循環（γCBF）よりみた浅側頭動脈—中大脳動脈吻合術の有効性について，術前の脳血管写所見と術前後の γCBF の変化に加え，術後バイパス血流遮断時の血流変化について検討した．1. 吻合領域の術後血流変化：中大脳動脈閉塞（MC/O）では5例中3例（平均12.0%），内頸動脈閉塞（IC/O）は7例中4例（12.0%），中大脳動脈狭窄（MC/S）は3例中2例（13.3%）と有意増加を認めた．しかし内頸動脈狭窄（IC/S）では11例中1例（平均2.0%）のみ増加した．2. バイパス血流遮断：MC/O 及び IC/O では各々4例中3例，MC/S では2例中1例で，吻合領域の血流が低下し，バイパス血流の有効性が確認された．しかし IC/S では4例中1例のみの変化であった．術後の γCBF の変化を，バイパス血流遮断時の γCBF の変化を比較すると，術後 γCBF が変化がなかった2例で，バイパス血流遮断により血流が低下し，このことはバイパス血管へ脳血流が依存していることを示すと思われた．

104. EC-IC Bypass 129例の検討

松崎　隆幸・武田利兵衛
田中　靖通・瓢子　敏夫
島田　孝・小笠原俊一
川合　裕・堀田　隆史
島崎　光哲・中村　順一
（中村記念病院 脳神経外科）
米松　克美
（同　脳神経疾患研究所）

再発作の予防及び症状の軽減を目的とした脳血管閉塞性疾患に対する EC-IC Bypass 術は，脳梗塞慢性期治療の主軸を占めている．しかし，虚血進行の阻止すなわち虚血完成前治療としての急性期 EC-IC Bypass 術の評価は，定かではない．本検討では，過去3年間における急性期及び慢性期手術の外科治療成績を比較検討した．

〔結　果〕

① 対象病変が MCA 領域の占める比率：急性期，34/38（89.5%），慢性期 41/98（41.8%）．

② perioperative strope を CT 上の術後変化としてとらえると急性期10例（26.3%），慢性期5例（5.1%）．しかし，急性期例の低吸収域出現は，虚血領域の縮少と考えることが出き重篤な出血性梗塞は1例のみであった．

③ morbidity は，急性期，慢性期それぞれ 10.5%，3.1%であった．

④ mortality は，急性期，慢性期それぞれ 5.3%，5.1% であった．

〔結　論〕

急性期手術は，適応により安全に施行しうると思われる．

105. 前大脳動脈閉塞症の臨床像

永山　徹・小暮　哲夫
高橋　明・吉本　高志
鈴木　二郎
（東北大学脳研 脳神経外科）
小川　彰
（国立仙台病院 脳卒中センター）

過去6年間に経験した前大脳動脈閉塞症10例の臨床像について検討した．年齢は49才から78才までで平均60.5才；男性8例，女性2例；塞栓症5例，血栓症4例，不明1例であった．Excellent 5例，Good 3例，Fair 1例，死亡1例であった．社会復帰例は10例中8例で全体の予後は良く，死亡1例は例外的な予後不良例であっ